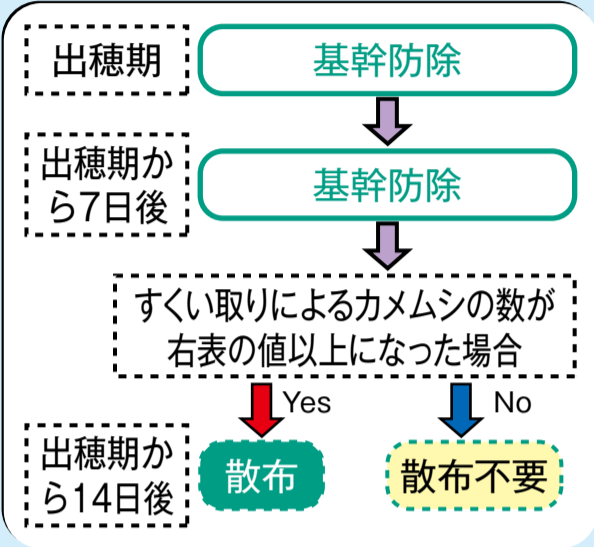


- ・カメムシの注意報が出ました。基幹防除を徹底し、モニタリングを利用して追加防除の要否判断を!
- ・いもち病は、基幹防除後も引き続き稲の穂揃い状況を把握し、必要に応じて追加防除を実施する。

## モニタリングを利用したカメムシ防除



### ◆病害虫発生予察情報 注意報第5号

カメムシが早発、多発のため、出穂期からの基幹防除の適切な実施が重要である。

#### カメムシ基幹防除後の要防除水準

すくい取り時期	20回振りのカメムシ数(頭)		
	ほしのゆめ	きらら397	きたくりん
出穂10~12日後(追加防除の2~3日前)	1	2	3

以降、7~10日間隔でモニタリング実施



アカヒゲホソミドリカスミカメ



カメムシ被害による斑点米

### カメムシ・いもち病防除のスケジュール

	7月	8月	9月
カメムシ防除		<b>基幹防除</b>	<b>要否判定による追加防除</b>
		出穂期 出穂後 7日目	出穂後 14日目 21日目 28日目
いもち病防除	葉いもち	穂いもち	
	茎葉散布 ○ ○ ○		

○ : 必ず実施  
○ : 発生に応じて実施

### ◆蜜蜂などへの配慮

養蜂家とは、事前に、散布する薬剤・時期などについて話し合い、特に農薬散布予定ほ場近くで養蜂が行われている場合は、以下の対策を講じる。

- ① 蜜蜂がカメムシ防除の殺虫剤に暴露する確率が高い場所には、できるだけ巣箱の設置を避けるか、水稻の開花期には巣箱を待避させる。
- ② 蜜蜂の活動が活発な時間帯の農薬散布を避ける。また、蜜蜂が暴露しにくい形態の農薬(粒剤等)を使用する。

◆いもち病は、基幹防除後も引き続き稲の穂揃い状況を把握し、必要に応じて追加防除を実施する。

◆MBI-D剤の防除効果が十分に得られていない水田では、使用しない。使用する場合は、防除ガイドに準拠。

◆メトキシアクリレート(QoI)系剤使用の注意事項

- ① 使用は年1回とする。
- ② 体系防除では作用性の異なる薬剤と組み合わせる。
- ③ 採種ほでの使用は避ける。
- ④ 規定量の処理を行う。

## 農薬のドリフト防止

- ・ 風のない条件で散布する。
- ・ ドリフト低減ノズルなどの器具を使用する。
- ・ 粉剤は、液剤や水和剤に比べ、ドリフトへの注意が特に必要。